



チャレスポ！ TOKYO

2017/1/9

“障害のある人もない人も スポーツで笑顔に”チャレスポ！ TOKYO

平成 29 年 1 月 9 日（月・祝）、パラリンピック競技をはじめとする様々な障がい者スポーツが体験できるイベント「チャレスポ！ TOKYO」が東京国際フォーラムで開催され、本学も協力団体として関わり、学生 12 名が運営ボランティアとして活動しました。

アスリートとともにパラリンピック競技種目の体験ができたり、オリンピック・パラリンピアンと都知事とのトークショーが行われるなど、東京都と東京都障害者スポーツ協会が主催するこのイベントは、障がいのある人もない人も一緒に楽しみ、障がい者スポーツに対する理解を深めてもらうことを目的に開催されました。

障がいのある人・ない人、小さな子どもたちから高齢者の方まで多様な世代の人たちが 1 万 7 千人集まり、大盛況でした。

活動の様子

朝のオリエンテーションでは、ボランティアスタッフ用の白色のジャンパーが配布され、活動の担当が割り振られました。首都大生は、①ボッチャ、②車いすテニス、車いすバドミントン、③ゴールボール、フロアホッケー、④フライングディスク、の 4 つの体験コーナーを担当しました。それぞれ受付で体験人数の調整をしたり、待機列の整

理、終了後のスタンプ押印、ボール拾い、コートでの整備、入った数のカウント、声をかけて応援するなど、参加者が楽しめるように笑顔で盛り上げていました。参加者と一緒に対戦したメンバーもいました。

各競技のアスリートの方がルールや方法を説明し、サポートしてくださっていたのですが、参加者は初体験のスポーツに苦戦している様子でした。小さな子どもと高齢者が同じルールのもとに対等に対戦し、本気で悔しがったり喜んでいたりする場面も多く見られ、障がいの有無や年齢を超えて熱くなり楽しむことができるパラスポーツの魅力を感じることができました。

活動を終えて

ボランティア参加者からは、「体験した人が楽しかったと言ってくれたので、役に立ててよかった」「これまで知らなかった競技を知ることができて自分も楽しかった」「参加者が途切れることがなく忙しかったが、“またやりたい！”と思えるほど楽しくやりがいのある 1 日だった」といった感想が聞かれました。

このイベントのボランティアの意義について理解し、自分たちも楽しみながら、やりがいを感じる有意義な活動となったようです。



朝のミーティングの様子

競技団体の方から、ルールやボランティアの役割について説明を受けた。



フロアホッケーの体験サポート



車いすバドミントンの体験サポート